

講演 仙台からアジアに向かった詩人、
アジアから仙台に来た詩人
—— 佐藤清と金起林を中心に ——

- 講師 佐野正人(東北大学国際文化研究科准教授)
 日時 2018年9月25日(火) 15:00-16:30
 場所 東北大学附属図書館本館 〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内27-1
 グローバル学習室(南側2階)
 アクセス 地下鉄東西線 川内駅 下車 南2出口から徒歩約6分
 国際センター駅 下車 西1出口から徒歩約7分
 対象 学生対象 教職員・一般の方の来聴歓迎 参加自由
 ※一般の方は、附属図書館本館受付で入館手続きをお願いします。
 企画 東北大学史料館 ※お問い合わせは東北大学史料館へ
 電子メール desk-tua@grp.tohoku.ac.jp 電話 022-217-5040

魯迅が仙台に来たことはよく知られているが、逆に仙台や宮城県からアジアへと向かった人々も多い。魯迅に限らず仙台を訪れたアジアの留学生も少なくない。外国人教師の存在もあった。今回の講演では史料館の展示に取り上げられた仙台出身の詩人・英文学者の佐藤清(1885~1960)、そして逆に朝鮮から英文学を学ぶために東北帝国大学に来た詩人の金起林(キム・ギリム、1908~1950?)について概観的に紹介したい。

佐藤清は仙台出身で旧制第二高等学校、東京帝国大学英文科を出て、1926年に新しく開設された京城帝国大学の英文科初代教授となる。キーツ、シェリーなどの詩を研究するとともに自ら詩人として『西灘より』『折蘆集』『碧靈集』などの詩集を出す。彼は教壇で研究と共に実作の重要性を説き、京城帝国大学英文科からは後に朝鮮文学を代表する作家・評論家たちを輩出している。

金起林は同時期に朝鮮の京城で詩人・ジャーナリストとして活躍し、1936年に東北帝国大学英文科に留学している。知的なモダニズム詩人として活動するが、科学的な詩論を学ぶために東北帝大への留学を行った。金起林と佐藤清との間に直接の関係があったかどうかは興味深い問題だが、現在のところよく分かっていない。ただ、二人の詩人・英文学者が仙台と京城とを結んでほぼ同時期に海を渡っていることは非常に興味深いことであると思われる。講演では二人の交錯するあり様を紹介し、戦前の仙台とアジアの関係について照明を行いたい。